

新潟県内における災害関係近世史料の翻刻

原 直史

1. はじめに

歴史地震など災害の記述を含む史料は、従来から積極的に翻刻・紹介され、過去の災害のメカニズムの解明や、これをふまえた防災計画等に活用されてきたが、史料全体の性格を判定しにくいごく部分的な抄出であることも多く、誤記や脱落等を含む不十分なものが散見される。一方、現代の災害により被災し、救出された史料は、その翻刻・紹介が救出活動そのものの必要性を証明することになるとともに、被災地におけるコミュニティの再建にとっても重要な役割が期待されるが、さらにそうした被災・救出史料自体にも過去の災害の記述があることに注目するならば、同一地域で繰り返される災害の態様を把握するうえで重要な意義を持つといえる。

以上の問題意識を踏まえ、報告者の当該年度の研究活動は、こうした史料の翻刻・紹介を中心に行うこととなった。

2. 天保4年地震・津波災害史料

天保4年10月26日（1833年12月7日）に庄内沖を震源として発生した地震とこれによる津波については、いくつかの史料がこれまでも知られているが、今回は越後国蒲原郡山ノ下新田（現新潟市東区神明町ほか）の名主を勤めた堀川家に伝来した史料を翻刻・紹介した¹⁾。同家文書は従来も部分的に翻刻・紹介がなされているが²⁾、今回まとまった形で翻刻を行ったことで、およそ以下のようなあらたな知見を得ることが出来た。

① 堀川家が管轄する山ノ下新田・榎新田における家屋の被害状況は、「潰れ」「半潰れ」「破損」の区分により新発田藩に報告されているが、「潰れ」「半潰れ」はいずれも津波を直接受けたことによるもので、地震の揺れのみによる被害は「破損」にとどまること。

② 津波襲来直後の報告書では、山ノ下新田と榎新田とで田畑の冠水状況に違いが見られること。その後判明した田畑の被害状況の認識にも、微細な差異がみられること。これは両村の地形条件の違いによるとみられること。

③ 藩がまとめて幕府に提出した被害報告書の写しを、藩が公式な触れのルートに乗せて領内の村々に周知せしめていること。これは災害の社会的認知の問題を考える上で興味深い事例と思われる。

以上は、断片的・部分的翻刻では知り得なかった新知見であり、まとまった一定量の翻刻作業の重要性を示している。

3. 旧種芋原村坂牧家文書

2004年の中越地震で被害を受けた旧山古志村地域からは、多数の歴史資料・民俗資料が救済され、その後新潟大学や長岡市立中央図書館文書資料室等の手で整理が進められてきた。今回はそのうち、種芋原村（現長岡市山古志種芋原）の庄屋を勤めた坂牧家に伝来していた近世文書の翻刻・紹介をおこなった³⁾。坂牧家文書は、これまでも翻刻・紹介がなされてきているが⁴⁾、今回は、山村ならではの環境の特徴や災害、これと向き合ってきた人々のくらし等が判明する史料に焦点を当て、4点の絵図を含む21点の史料をピックアップして高精細な写真を掲載し、絵図トレースを含む翻刻と詳細な解説を付して、研究者の利用と地域社会での活用の双方に耐えるよう心がけた。

こうした作業の結果、地滑り・山崩れや飢饉等の災害に向き合いつつ暮らしてきた山村の歴史がより具体的に明らかになった。特に絵図の解説・トレースにより、地滑り災害などへの対応と耕地開発の過程とを一体のものとして、村の具体的空間の中に位置づけていくための基礎が確立した。さらに現物や高精細な写真の精査を通して、従来の翻刻の誤記・脱落等を正すことが可能となった。

なお今回の企画では、上記近世坂牧家文書の他に、夏目漱石とも親交のあった明治期坂牧家の人物坂牧善辰の関係史料や、同じ山古志地域に属する旧竹沢村（現長岡市山古志竹沢）星野家に伝えられた近代養鯉業関係文書、さらに民具の写真と解説を配して、救済された歴史資料から地域の姿を多面的に描こうと努めている。

4. まとめ

上記の翻刻・紹介は、それぞれ既知の文書史料の再調査に基づくものであったが、意識的にこれを扱うことによって多くの新知見につなげることが出来た。こうした再調査も現時点でなお有効であることが示されたといえる。一方で特に近世後期の地震災害などを中心に、未知の文書史料が地域に存在する可能性もある。今後の調査の課題であろう。

参考文献

- 1) 原直史（翻刻・解説）、越後国天保四年地震・津波災害史料、新潟大学環東アジア研究センター編『近世・近代越後佐渡災害史資料（環東アジア研究叢書2 環東アジア地域における社会的結合と災害 資料編）』、1-27、新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター、2012年
- 2) 新潟市合併町村史編集室（編）、新潟市合併町村の歴史 史料編二、233-237、新潟市、1981年
- 3) 原直史・池田哲夫・長岡市立中央図書館文書資料室（編）、山古志の文書と民具、56-94、新潟大学災害・復興科学研究センター危機管理・災害復興分野、2012年
- 4) 山古志村史編集委員会、山古志村史 史料一、山古志村役場、1981年